令和６年１月４日発行　　第３２号　　ＮＰＯ法人苫東環境コモンズ

苫東環境コモンズの
活動をまとめて報告

haskap
NEWS LETTER

～コモンズの現地から発信する～

勇払原野のSPIRIT

コモンズの視線

新年あけましておめでとうございます。令和５年は国外の大量の殺戮を伴う恐るべき戦争のみならず、国内も激動と呼ぶべき世相でした。崩壊と新生は世の常とは言いますが経済や地域社会の変化だけでなく、自分の人生も体力と知力の衰えに伴って間違いなくフェードアウトしていくのだという事実を、人みな等しく甘受することになります。年齢によってそれが早いか遅いかだけと悟りつつあります。

さて、勇払原野の様子も例外でなく様々でした。猛暑にも拘らず生き物は元気よく伸び、飛び回り、一方ハスカップの自生する伝統的コモンズのサンクチュアリー帯は、近年にない不作とドクガの発生のためか、人が訪れることもなく太古の原野に戻ったようなすさまじいジャングル状態でした。久々に訪れた厚真の造成された緩衝緑地は人工林の常として幸い勝手に伸びてきたものの、勇払原野の環境圧に負け、いずれ終期が来る状況が見えます。

ＮＰＯ苫東コモンズはこの１月に設立１５年目に入りました。ここ２，３年は世代交代を課題のひとつとしてきましたが、分担も進み個人的には少しずつ肩の荷が下りるような感覚を覚えています。そんなこんなで、令和５年と近年の、小職の記憶に残る画像を紹介しようと思います。一部は昨年の苫東フォトコンテストに応募したものです。これは入賞よりも応援してくれた関係者と土地所有者・苫東の関係者にもコモンズの普段の姿を見てもらうのが一番のねらいでした。この機会にフィールドに参集した会員各位の労をもねぎらいたいと思います。（草苅）

NPO　http://hayashi-kokoro.com/commons00.html　雑木林＆庭づくり研究室　http://hayashi-kokoro.com/

Photo 1　晩秋の雑木林ケアセンター

平木沼緑地の静川の小屋。平成９年７月１１日竣工、築２６年。勇払原野における里山景観創出の拠点。一昨年は窓を増設、昨年は防腐剤塗布。2019/11/12 撮影

Photo　２、３，４　危険な作業現場の実態

山仕事は危険が伴う。毎年スキルアップの研修と研鑽を積みながら大きな事故を回避。林道やフットパスの倒伏リスクも事前防止。2021/02/06 の oyama さん

一昨年から遠浅・大島山林の薮を切り開いて新しい管理用フットパスを作っている。苫東の広葉樹は大木から順に倒れるから大変だ。ただ、このハルニレ一本で約２軒分の薪になると推測される。放置すれば腐るだけだからＳＤＧｓに大貢献である。果敢に挑むのは若手 urabe さん。2023/03/18

ツルがらみの現場は陰々滅々の風景になる。複雑に絡むので伐倒には経験に裏打ちされたシミュレーションが欠かせない。これはまだまだいい方。2023/01/14

Photo ５＆６　われら雑木林の熟年木こり

雑木林の保育に携わる面々の素顔は様々。一昨年までは卒寿を迎えた地元遠浅の方もチェンソーを持って活躍した。除雪のためトラクターも駆使された。会員の３分の一はリタイヤされた方で、残りは現役で日本を背負う人材ばかり。普段、難しいことを考えているためか力仕事が気晴らしに最高らしいことと、拾い集めた材を薪暖房に再利用できる「循環」に集っている。

スノモに乗った中央の方が卒寿の木こり、遠浅の migita さん。右端は最年少の kawai さん３０代前半、その差は約６０年。2021/02/27

「コナラのフットパス」開通を祝っての集合写真。大島山林のフットパスを最もよく利用する遠浅町内会のＮ先生夫妻によると「大好きな径ができた」と喜ばれた。薪炭に利用されてから７０年以上放置された広葉樹林の修景はスタート時には惨憺たるところもあったが、終わってみると「やって良かった」。上は来るべきシーズンの除間伐エリアの下見と打ち合わせを兼ねてフットパスを一周した時の記念。2023/03/18

Photo ７　腕に磨きをかけて進む森づくり

ボランティアが地域の民有林で森林公園を創ることのできる複合的モデルはこれから注目されることと思われる。フットパスを作ればそのサインやマップを用意する必要があるし、落ち枝や落下の危険枝も見回りできる範囲で対処することが欠かせない。2023/05/09

Photo ８　除間伐材はヤブ出しして薪で循環

毎シーズン、薪の生産量は運任せ。どのエリアを手入れするか、適当な薪材があるかはやってみないとわからない。先シーズンは辛うじて１３軒分ほどがあった。2023/05/20

Photo９ ＆１０　里山の拠点をリフォーム

静川の小屋の窓辺風景はここが工業地域であることを忘れさせる。平成９年から小屋の「雑木帳」は３冊目。竣工時の学生さんも今は社会の中堅。2023/06/03

昨年秋、小屋に「雑木林ライブラリー」が完成。蔵書は abe 顧問の伐倒技術など森づくり系、草苅の森林医学、雑木林と里山、山の画集、エッセー、会友・故 umeda 先生の英国もの、ほか takizawa 前代表の冥想シリーズも１０冊あまり含んで計５２０冊。棚は ya-taro さんの本格的木工と当方の寄付物件＆手づくり壁棚。結構マニアックな空間ができた。2023/11/04

Photo １１　新緑の山仕事に憩う

春５月、作業テントの中からテーブルとイスを外に出し、新緑のシャワーを浴びて休憩と歓談。2023/05/20

Photo １２　手入れ後の作業風景

２月になれば冬の山仕事はピークを過ぎてなごみの風景に変わる。１年前、ここがツルの絡む薮だったことを知る人は少ない。2021/02/06

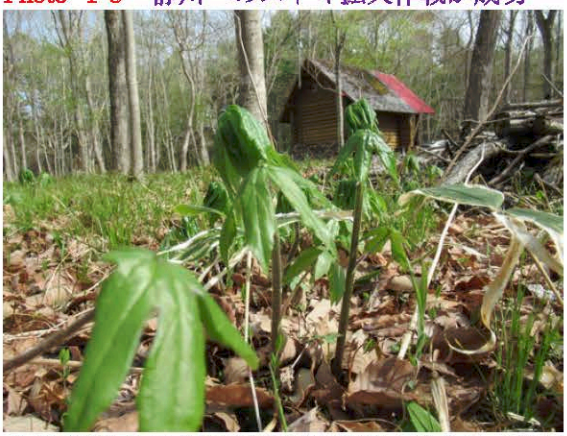
Photo １３　町内会と探鳥会

日本野鳥の会の協力を得て、恒例の探鳥会。町内会からは毎年１０名近い参加者がいる。新しいフットパスで倒した枯れ木にキツツキ類も多く来た。2023/05/20

Photo １４　雪解け前の大盛り運搬

例年２月末には搬出路の雪が消える。この日はスノーモービル最後の日。これでもかと積み込んで、推定重量は１トン以上、これを５４０ｃｃの YAMAHA スノモ「バイキング」が引く。積まれた材でわかるように、苫東コモンズのブランド「雑木薪」は多種類の樹木で成り立ち、少しぐらいなら枯れていても利用する、いわば SDGs 協賛型。2023/02/25

Photo １５　静川へのスドキ拡大作戦が成功



大島山林からスドキの穂だけ数本移して４年。種が飛散して自生していなかった小屋周りにスドキ畑が完成しつつある。2023/05/13

////////////////////編集後記////////////////////

■以上１５枚の画像で苫東コモンズの近況を紹介しました。そのうえで、はて苫東コモンズは結局何をしているのか？ということになりますが、林業ではなくその技術を利用して「地域の森林改良と利活用方法を実験している」と言えそうです。手間がかかるのはコモンズという仕組みを構築し維持することですが、コモンズはこれから社会の関心が高まりそうな気配です。■メンバーは毎週のように年間を通じてフィールドに集いますから４０day/year 前後という方も。同じ林や原野にこれだけ通えば土地の雰囲気、勇払原野という風土の匂いも感じているだろうと推測します。「勇払原野の spirit 」という珍しい名前の小紙もそこを先取りして発信するのがねらいですが、土地の魂が匂ってくる風土感は、改変されていない湿原と雑木林が残されてこそ、です。■かつて農耕に使えなかったために残され、火山灰と海風で樹木が育ちにくいため粗放な薪炭林となったそのストックが、現代の土木技術によってこれ幸いと急遽産業空間に変わっている…、わたしたちは歴史の必然と偶然に向き合っているのでしょう。■このレターは今回の３２号で最後にしようと書き始めたのですが、編集している間に、苫東とコモンズの井戸を掘って下さった関係者と応援してくれた方々にもうしばらく私信のようにお出しするのも意味があるかと思い直しました。というわけで今しばらくお付き合い下さい。

＊お問い合わせ・ご感想は、kt-884-556@nifty.com
090-6999-2765 苫小牧市豊川町 3-3-8 草苅まで。